

平成26年度第1回藤枝市行政サービス評価委員会

日時：平成26年9月29日（月）15:00～17:00

会場：藤枝市民会館 2階 会議室1～3

※大橋 慶士委員長の講評

- ・健康福祉施策の範囲は広いため、限りある資源、財源を効果的に投じていく必要がある。定住人口の増加のためには何が必要か、しっかり見極めることが大切である。
- ・また、行政サービスの今後のあり方としても、行政が予算を使って担う従来の方法だけではなく、地域住民をどう活かしていくか、さらにひと工夫することが求められる。
- ・昨年来、言い続けてきたが、成果指標の採り方を考え直すべきである。単純に人数等の増減で計るのではなく、或いは、必ずしも数字にこだわらなくても、藤枝市が目指す将来像を達成するための政策、施策や事務事業を眺めて、「木を見て森を見ず」とならないようにすることが重要である。
- ・年々、評価委員のスキルもアップし、議論が深まっている。その意味でも、本日の会議は大変有意義であった。皆様のご協力に感謝申し上げます。

【本日の委員意見・論点】

- ・子ども子育て支援新制度により、安心して預けられる保育行政を期待する。
- ・高齢者施策として、要介護者等の受け皿をどのように考え、整備していくか。
(A:介護保険計画では、グループホームの整備を優先しつつ、在宅介護を基本とする。)
- ・障害者や高齢者に安心・安全な移手段の確保・充実を期待する。
- ・伸びゆく健康・福祉施策における財政需要を踏まえ、国や県にもしっかりと推計と財政負担を申し入れるべき。
- ・限りある資源の活用には、ポリシーミックスによる効果的な政策展開に向けて一つ一つの施策を吟味していく必要がある。
- ・放課後児童クラブや子育て支援センターの柔軟な運営と指導員の質の確保、さらには、地域全体が子育てに目を向け、住民の協力が得られるような取組が大切である。
- ・民生委員・児童委員への相談件数が、施策の判断材料になるのではなく、相談の目的が達成され、住民にその効果が意識されているかが重要である。

《山梨副市長》

- 人財をいかに育て、いかに活用していくか、それは新公共経営の理念でもある。官・民の努力が必要だが、地域の人々にも手弁当で行政を助けていただき、そうしていくことが市政を豊かにすることにつながる。
- 予算の上手なアロケーションを行い、人財の育成・確保も投資として考えていく必要がある。そうして行政が社会と共に仕事をさせてもらう。それが重要である。